

## 人生を見つめなおした、春

東京都国立市 やまびこ文庫 代田みち子

2020年がこんな年になると、誰が予測できたでしょうか。新型コロナウイルス感染拡大により、学校は休校、経済活動縮小、皆が大いなる自粛生活！私は約3ヶ月文庫を閉鎖、子どもたちや世話人の皆さんと会えない日々を過ごすことになった。



一時閉鎖直前の文庫おはなし会 2/6  
＜ 晩白柚～きんず：各種柑橘類を紹介 ＞



Yさんの博士論文報告を世話人で聞く 2/20  
＜ 内容：やまびこ文庫の年間記録と分析 ＞

**やまびこ文庫は27年目の家庭文庫。**実は10年前から夫の両親の介護支援、その後の家の管理責任があり、国立の家と信州自宅の二重生活を続けている。(私が国立を留守にする時は、世話人Sさん宅がやまびこ文庫分室となり「おはなし会」を実施、助けてもらっている。)

この春あらゆる活動が中止となったので、私ども前期高齢者二人は信州の自宅ですごした。私は咳ぜんそくの持病があり咳がよく出る。街中へは勿論出られず、スーパーへ出かけるのも冷や冷やなもの。古い買い置きの水色のマスクを重宝した。山口の母(93歳)への月一度の介護支援も急遽中止。さらに娘が学びの長い旅を終える区切りを、親として見届けようと計画していたイギリスへの旅もキャンセルとなった。春愁の空の下、信州自宅にいて誰も来ない、どこへも出かけない日々は、重苦しい空気の漂う毎日だった。庭先の花と、次々に芽吹く新緑に少しばかり心は癒されたが…。

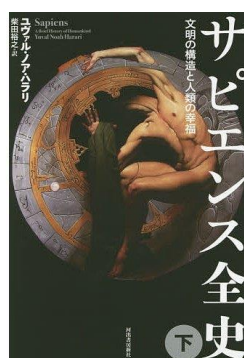
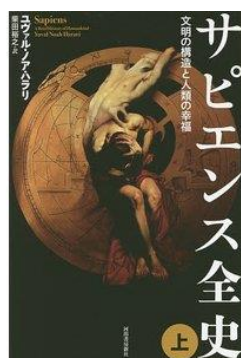
代わりに得られた時間で片付けをしようかと思うものの、気力がない。積んでおいた本を静かに読み、新聞は丁寧に読むことになった。新型コロナ関連のニュースは勿論、声の欄、歌壇・俳壇・川柳にも感心した。テレビもよく見て夫と議論したり、頑張っている知事にエールを送ったり…。ただこの時期、何よりも励まされたのは「スマホのLINE」だった。子どもの本仲間や家族だけだが、送られてくる本情報、写真、音楽、動画、川柳！どれほど笑い、どれほど元気をもたらって助けられたことか!! PCだけで充分と思って、持つつもりがなかったスマホに。

文庫の皆には会えなかったが、卒業・入学のシーズンだったので、「高校に合格しました」とか「できないと思った卒業式が感動的に行われました」「やっと大学合格、でも入学式は無し」などのメール連絡が入ってきた。当方の文庫は普段の「お話会の報告や連絡」の必要か

ら、メーリングリスト（35人）をもっている。私に連絡が来たものは発信者の許可を得て皆さんの様子を「成長する子どもたち」と題して次々転送。小さな頃を知っているのに、近況を聞いて嬉しいのは私だけではないらしい。また楽しみは、年末から年始にかけて文庫来訪者の二家族に誕生した赤ちゃん。その成長ぶりと兄弟の対応はなんとも微笑ましい！会えなくてもメールで近況を互いに確認出来て、有難いと思った。コロナ禍と言われるが、「zoomで子育て助け合っています」とか、様々な工夫で乗り切っている若い家族の声は、文庫仲間が元気をもらえる情報となった。

図書館も閉まって読む本がない、困っているという連絡も受け取った。薬を受け取りに上京した折に、学年と好みを考え、「貸出福袋」として二家族に10冊ずつ本を届けた。親から「Good choice」の連絡は来たが、子どもはどう思ったか？文庫が始まってみたいとわからない。

この機会に「病原菌」関連の本も読んでみた。カミュの『ペスト』は共感と連帯を得る物語だが、古い語調で読み辛かった。デフォーの『ペスト』は実録で凄まじい、詳しく辿れないほど。『病原菌の世界史』石弘之著は俯瞰しながら読むことができ参考になった。その中でも『サピエンス全史』上・下 ユヴァル・ノア・ハラリ著（河出書房新社）はあらゆる角度で人類の来し方行く末を考える機会をもらった。著者は2016年出版当時来日もされたとか。この時期、NHKテレビのコロナ緊急討論やNHKBS単独インタビューなどに度々登場されていた。



本著は人類がしてきた根本的、本質的問題を浮き彫りにし、今後の生き方を示唆している。人類は生態系を壊し悲惨な状況に追い込み、動物たちに甚大な災禍を与えてきたようだ。野生動物との距離が近くなり、新しい病原菌との付き合いを考えていかねばならぬらしい。大部の歴史書としては異例の読みやすさ、高校生でも読める。とても興味深い展開で語られる。歴史をたどるだけでなく、政治、宗教、医学、天文学、生物学、文学…など、いろんな分野の話題を結び付けながら人類の辿った道が語られている。時折この件は後でいいと読み飛ばす箇所もあったが、解釈の深さに頭がクラクラすることもあった。楽しみながら学びながら、我々人類の未来を考えたいものだと思う。

今は『暇なんかないわ 大切なことを考えるのに忙しくて』（アーシュラ・ルグウィン著）を読んでいる。6月、緊急事態は解除。まずは公園の「あおぞら文庫」で久々にみんなと会いたいと思っている。家居して三か月「我が人生を見つめなおし、老後を考える春」だった。今後どう舵を切るかも、少しずつ見えてきた。 2020年 6月1日